

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001042		
法人名	医療法人 北光会		
事業所名	グループホーム 朝里		
所在地	小樽市朝里2丁目6番18号		
自己評価作成日	平成24年3月6日～14日	評価結果市町村受理日	平成24年5月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoino-hokkaido.jp/kaigosio/infomationPublic.do?JCD=0172001042&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人経営のグループホームの為、医療の必要な方の連携がとりやすい点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの場所は国道近くですが、静かなゆとりある敷地にゆつたりと建てられ、周囲には畑があります。室内もゆとりがあり、車椅子でも十分に移動が出来る造りになっています。介護度の高い利用者も食堂と一緒に食事をし、生活を共にしています。家族の訪問は比較的多く、毎日、週2回、あるいは月2回など、定期的に来訪され、職員と気軽に話せる関係が築かれ、家族から信頼を得ています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経験・個性・思いを理念に掲げ、施設全体で共有し、日々実践につなげています。	理念は玄関に、また室内に大きく掲示され、日々の生活の中で、重点的に意識し利用者への個別支援に活かしています。「経験・個性・思い」の理念の現実化に努力をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	訓練や行事等、地域の方々に参加して頂き、連絡・交流等をとうして、社会資源を活用し、日常的に交流を図っています。	地域の商店から食材を購入していますが、お店の方が、よさこい踊りのボランティアで来て頂いたり、町内婦人部の協力が得られたり、日常的に繋がりを大事にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の性格・思い・日常生活等、地域の方々との交流をとうし、全体で支えて行くよう、理解支援に取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係者等・意見・助言をしっかりと受け止め、連絡・報告・相談・話し合い、無理のない支援に取り組んでいます。	2ヵ月毎に会議は多目的室で開催され、幅広い分野から出席があります。しかし、家族の参加が見られません。内容は、報告のみならず、多岐にわたっての意見交換があります。会議を通して地域との交流が図られています。	今後、家族の出席について努力されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員から上がった問題等・ホームの中で皆で話し合い解決出来ない場合、市の方に連絡し連携を取り、取り組んでいます。	法人において、グループホーム担当者が配置されています。困難な問題では市に相談し、助言を頂いたり、協力を頂き、監査の後などには、改善に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行為を職員間でも理解し、入居者様が穏やかに過ごせる様、日々拘束の無い生活に取り組んでいます。玄関施錠の件については、鉋路でGH強盗が発生した後から人手の薄くなる18時以降は施錠し、職員・入居者様の安全に配慮した形を取っています。	身体拘束のないケアを目指して、マニュアルを作成し、全職員が共通の認識をもって、ケアに臨むように取り組んでいます。各ユニット入口に出入りの把握できるセンサーを設置し、利用者の安全に心がけ、ベッド柵などにも配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の尊厳の保持・自己発言・自己決定権を尊重し、虐待防止法を学び、施設内外で防止の徹底に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前 後見人制度を利用された方がおり、その時に管理者は学ぶ機会を得ました。 又時折新聞紙にのる成年後見人制度の内容を読み学ぶ機会としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、重要事項説明書や契約書の内容を、御家族の方に説明し、分からない事、不明な事は無いか確認してから署名捺印して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の意見、苦情等 その場で対応したり、会議を行い職員に説明・話し合っています。	家族の訪問が多く、職員は気軽に話せる関係になっています。管理者が聞いたことを、職員と話し合い前向きに取り組み、ケアの向上に活かしています。運営推進会議への家族の出席が望まれます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	母体病院の事務長や事務次長と個人面談の機会があります。	法人母体の病院事務長や次長と、個人面談の機会がありますが、十分とは言えません。毎月1回の会議では、主に利用者の介護計画や行事の話し合いで終わっています。職員が、運営その他の課題について検討する時間が不足がちです。	代表者や管理者は、ホーム全体で、職員と話し合いが出来る機会を設定することが望まれます。また、研修の場が不足しています。今後の工夫と努力を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、個人目標を提示しそれに対し、目標を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区で職員が勉強出来る相互訪問研修があったり、法人内でも勉強会がある時は参加したりと働きながらスキルアップのトレーニングを行う場が提供されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修に参加しそのホームの良い所を持ち帰り、職場でも生かせる様な内容を発表し皆で話し合い、サービスの質の向上に努めています。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中からでも、不満や不安を汲み取れるような環境・関係を作る様心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはホームを見学して頂いたり、又、入居時には被く様の思いをしっかりと聴き、書面に残し、ホームとして出来ることの説明をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と本人の思いと希望を理解した上で、ホームでの生活に必要な支援を考えて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体的・心境などを見極めて、出来る事を探し穏やかで、笑顔の見られる日々が送れる様な支援が出来るように努力しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来訪されたときには、本人の日常生活を伝えながら、家族様の様子も伺いコミュニケーションを取る事に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を汲みながら、又、家族様の意向も聞きながら、馴染みの仲間や友人が集まり易い様に配慮しています。	利用者と馴染みの関係が途切れないように、家族はもちろん親族との繋がりを大切にしています。教会の方々も多く訪問され、一緒に誕生会をして、利用者の楽しみになっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の距離を見定めよい関係を維持出来る様、また、共同生活を楽しく過ごせる様な支援を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を望んでいる家族様とは、関係を絶ち切らない様にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人の思い・意見・希望を可能な限り聞き入れ支援出来る様に努めています。	言葉や意向の把握が困難な方でも、家族等から或いは仕草や顔の表情など、出来る限り利用者本位に努め、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には確認していますが、把握出来てないところもありますので、入居後に思い出された話の中から把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の1日の過ごし方等の情報収集しているが、入院していたなどで家族様も状態を把握されてない事が、多々あります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の担当を決め、知り得た情報から必要のニーズを探しアセスメントをし職員間で話し合い介護計画書を作成しています。	ユニット毎に3ヵ月に1度は見直すように、介護計画作成者を中心にミーティングをし、話し合いをしています。日々の記録が、介護計画に基づいて記載されています。家族の意見を受け止め、利用者の個別支援を心掛けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの実際を記録し、毎日の申し送りで職員間で情報や問題点を話し合い、共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度柔軟な支援サービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と協働し、家庭菜園や草取り等無理なく楽しく作業出来る様、支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族様の希望を大切にしています。必要時にはかかりつけ医に相談し、適切な医療が受けられる様に支援しています。	利用者と家族の希望で、かかりつけ医を確保しています。家族の引率で通院している方もいますが、ホームへ月2回往診医が来ますので、受診しています。また、訪問看護師の支援もあり、法人母体が病院で医療面の安心に繋がっています。	重度化や終末期の対応に不安がみられます。状況に応じ随時の往診を充実することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で異変に気付いた場合、看護職員に情報と伝え、相談し適切な受診が出来る様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が常に御家族・病院関係者と連絡を取り合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調が悪化した入居者の御家族と話し合い、御家族の希望する支援が出来る範囲を説明し納得して頂けるように病院等と共に支援しています。	重度化対応の指針を作成して、契約時に同意を取り交わしています。高齢化や重度化に職員や家族が不安を抱えています。その都度話し合いをして、状況判断をしています。現時点でも対象者が見られます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時 事故発生時のマニュアルは作成しています。定期的な訓練も行なっていますが、実践力はまだ身についていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと 避難訓練・消火訓練を行ない災害対策のマニュアルも作成し地域との協力体制も築いています。	年に2回、消防署の協力で、昼・夜間を想定した避難訓練を実施しています。災害対策マニュアルを作成し、地域との協力体制も整いつつあります。スプリンクラーは設置されています。	非常時持ち出し品の準備が不足しています。災害時対応の懐中電灯など、必要品の備えを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方が不愉快な気分にならない様な言葉使いや会話作りを心がけ、対応しています。	理念を活かして、利用者の人格を重んじ、言葉かけなど注意して、プライバシーに配慮した対応に努力しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自由な時間を過ごして頂き 希望や思いを話しやすい関係を築き、自己決定できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	混乱や乱れが生じた場合は、その考えをその人らしく安全に暮らせるように、その人のペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分自身が納得し、清潔でおしゃれを楽しめる様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米研ぎや配膳のセット、入居者の方々が食べやすい食事の工夫や会話、お手伝い出来る方には食材切りや食器の後片付けも行っています。	職員が献立を考え、法人の栄養士の点検の下、利用者の状況に合わせた、トロミやミキサー食と、幅広い食事の提供を支援しています。出来る利用者は後片付けなどの役割を担っています。	職員は同じ食事を共にしていませんが、グループホームとしての家族的な観点から、検討を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養を摂れるメニューをもとに、一人ひとりの状態に合わせた量・好みを工夫し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守り、促しにて口腔ケアを行っています。必要時は介助し 舌磨きは歯ブラシを使い清潔を保持しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により 個人の様子や理解力に応じた適切な誘導、介助を行っています。	排泄記録によって、個別の対応で、出来る限り自立に向け取り組んでいます。トイレの位置や設備など、使いやすい造りになっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫し、排便の記録を参考にトイレ誘導を行い 下剤に頼らない様支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、しまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています、予定日以外でも希望に添える様な体制は整っています。只 時間帯は職員の勤務時間により 夜間の入浴は行っていません。	概ね週2回は、入浴出来るように支援しています。重介護の利用者には、職員が複数で介助したり、シャワー浴、清拭など、清潔に配慮して支援しています。明るい浴室ですが、浴槽の位置など介助に工夫をし、安全に心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムが崩れない程度に昼寝をして頂いたり夜間も生活習慣を考慮し、安心して眠れる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の目的・副作用が明記されており、職員が確認出来るように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力量を活かしたホーム内のお手伝いや、外出・誕生会等の企画を設け気分転換等の支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や家庭菜園、戸外に出て洗濯物干し等と外に出る機会を設けています。又、家族の協力を得て普段行けない場所にも出掛けられるよう支援しています。	年に2回ほどは、花見と紅葉狩りを屋外行事で実施しています。徐々に機能が低下して、外出困難な利用者には、敷地内の畑に車椅子で出向くなど、少しでも外気に触れる機会を持つようにしています。また、家族が引率しての外出にも応援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力により、お金を持つ事の大切さは理解してはいますが、個人的に所持・管理は難しいので、事務所でお金を預かり、本人の希望に応じて使う機会を設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可を得て 本人が電話をかけたり、手紙のやりとりを支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節毎の飾り付けを行ったり、イベント時はボードに予定を掲げ入居者様に季節感を感じて頂き又、毎日掃除をして、清潔を意識し居心地良く過ごせる様工夫しています。	台所がホームの中心にあり、食事の準備や片づけが利用者の目線にあります。ゆったりした造りで、窓や開口部も窮屈でなく、居心地良く過ごせる場所になっています。車椅子や歩行器の利用も難なくスムーズです。壁面の利用も、利用者の生活の場所になっています。各ユニットに多目的室が用意され、家族の宿泊も可能になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席は気の合う者同士が座れる様に工夫したり、一人になりたい時はベンチで過ごせる環境を提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には 使い慣れた物・好みの物を使用して頂き、居心地良く過ごせる様にしています。	居室には収納場所や棚の設置があり、それぞれが馴染みの場所になっています。写真を飾ったり、趣味の物を置いたり、出入り口の暖簾や、ネームプレートにも個性的に配慮があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室などわからなくなった時は、見守りをしたり ネームプレートを設置したりして混乱を防ぎ、安全に生活が送れる様にしています。		